

1 情勢報告

JA土佐くろしお管内のクジャクアスターの〈学び教えあう会〉が開催されました。

JA土佐くろしおクジャクアスター研究会



JA土佐くろしおクジャクアスター研究会の「学び教えあう会」が、10月14日に2戸の篤農家ほ場で開催されました。振興センターからは、この夏の気象条件による生育不良等について、篤農家・JA営農指導員からは、採苗方法や夏の高温後の抽台のさせ方等の説明があり、活発な質疑が行われました。

その後、花き市場担当者を含めた販売に関する研究会では、市場側から花きの消費動向等について、JA販売課から現在の出荷状況の説明があり、今後出荷予測に基づき市場と連携して出荷していくことを確認しました。

振興センターでは、今後とも関係機関と連携し、栽培技術向上と安定出荷に向けた取り組みを行っていきます。

J A津野山管内のハナニラ現地検討会が開催されました。

J A津野山ハナニラ部会



ハナニラ現地検討会が、10月13日にハナニラ部会長ほ場で開催され、実証ほの生育状況、秋播き苗の育苗状況等を検討しました。

その後、農業技術センター山間試験室から実証ほの収量と生育状況調査の中間報告を、振興センターからは、厳寒期の保温技術などの今後の栽培管理を説明しました。さらに販売対策として、園芸連の販売担当から市場における評価等の情報提供があり、J A・振興センターからも、出荷予測による計画的出荷の重要性等を説明しました。

参加者からは、「消費者へハナニラの認知度を高めるためのPR等が必要である」等の活発な意見が出されました。

振興センターでは、今後とも関係機関と連携し、ハナニラの栽培技術を確立し、併せて、ハナニラ部会の組織活動の支援と川下での認知度を高める取組を支援していきます。

大野見産米エコ研究会は初めて販促活動を行いました。



大野見産米エコ研究会は、旧大野見村で特別栽培米等の環境に配慮した農法で消費者に選ばれる米づくりに取り組んでいます。

10月16日に、JA四万十大野見支所で行われた『大野見米新米フェスタ』において、試食販売の活動を行いました。

来場者に食味をしてもらい、その結果から、今、食べている米と比べて、味・香り・甘み・ねばりの全ての項目において高く評価されました。

それにより、525kgの大野見米が売れ、定期的に継続して購入する顧客が4名できました。

振興センターでは、今後も、このような消費者に認知される大野見米のブランドづくりを支援していきます。

1 情勢報告

J A土佐くろしお管内のインゲン現地検討会が開催されました。

J A土佐くろしおインゲン部会



J A土佐くろしおインゲン部会の現地検討会が10月20日に、中土佐町と須崎市の2地区で開催され、35名の部会員が参加しました。

この時期は播種後の大切な時期であるため、播種後14日目の両篤農家圃場の生育状況等を確認しながら、〈初期管理〉を主なテーマとして実施しました。

J Aからは地区の概況や農薬の安全使用について、振興センターからは、ジベレリン処理や誘引等の初期栽培管理について説明しました。

その後、誘引方法や灌水方法など、篤農家を含め生産者同士が実際の管理についての意見交換が活発に行われました。

今後も、生育ステージに合わせて、現地検討会を開催していく予定です。